

守山まるごと活性化プラン検討委員会
第1回 学区別会議（合同学区別会議）

日時：平成25年6月15日（土）午前10時～12時

場所：守山市民ホール 小ホール

【次第】

1. 市長あいさつ

2. 講演

(1) 『日本一のまち守山、素晴らしい地域資源』

京都大学名誉教授 高谷 好一 氏

(2) 『地域資源の発見と活かし方』

滋賀県立大学人間文化学部教授 濱崎 一志 氏

(3) 検討の進め方等の説明

(4) パネルディスカッション『守山まるごと活性化プラン検討の意義について』

コーディネーター：滋賀県立大学副学長 布野 修司 氏

パネリスト：高谷好一 氏、濱崎一志 氏、守山市長 宮本和宏

【講演1】 『日本一のまち守山、素晴らしい地域資源』

京都大学名誉教授 高谷 好一 氏

- 速野学区の開発出身で、長い間地元を離れていたが戻ってきた。世界中を歩いてきた外からの目線でみても、守山はすごいところであるので、今日はそのことについてお話ししたい。
- 守山には2つの良い点がある。ひとつは、美しい水辺、美しい田園風景などの自然とそこに住む人々の生き方が素晴らしいという点である。湧水があり、綺麗な川が流れ、ホテルが住んでいる。西には琵琶湖があり、水源であると同時に生活の場でもある。
- 本日はもう1つの宝を強調したい。守山には日本一の弥生遺跡群であり文化庁の史跡指定を受けた下之郷遺跡と伊勢遺跡がある。これをみんなの宝として、軸として活性化してはどうかというのが、私の提案である。
- 下之郷遺跡は堀で囲まれた環濠集落であり、ここには日本人の生活の元がある。米を食べ、床張りの家に住むという生活の基本があり、フナや草木などの動・植物の遺体も良好な状態で数多く出土しているため、日本の原型がわかる史跡として国の指定を受けている。それを発展させたのが伊勢遺跡で、「クニ」が誕生する過程がわかると言われている。

- 伊勢遺跡が最も栄えた紀元後百数十年～二百数十年頃は卑弥呼が擁立された直前であり、発見された大型竪穴式建物からは、ここが近畿の中心で、国の首長の会議が開かれていたと考えられている。大型竪穴式建物は、床が80cmほど掘り下げられ、床全体には粘土が焼き固められており、古代煉瓦を積み上げた壁の内側には板が張られていた。当時の日本にはない珍しい方式で、そこには外国人の王様が住んでいたのではないかとされており、それはもしかすると卑弥呼かもしれないと考えている。日本の歴史に関わるこれらの重要な遺跡があることを我々は十分に認識して、守山市民として歴史を受けて立ちたいと思っている。
- 水辺のある田園風景と歴史的プロセスを示す2つの遺跡。このふたつを活かして守山の活性化を考えなければいけないのではないかと。守山をまるごと活性化するだけでなく、日本まるごと活性化のひとつの極めて重要な拠点にしなければと思っている。
- 作物と高床建物の分布状況を見ると、アジアは基礎文化を異にする地域に2分化され、畑作で地床建物に住む地域と稲作で高床建物に住む地域に分かれる。日本は稲作で高床建物に住んでいる地域の最北端に位置し、まれびと信仰に見られるように古来より他社会と共存する弾力性や知恵を育んできた。現在の日本はアメリカと中国の両覇権国の間で、オタオタしながら仲介の労をとり、世界の共存を図る役割を果たしている。
- 守山には、我々日本人が作り上げた歴史がある。守山を見れば日本の極相がわかるというものを作り上げ、みんなで守山のことを一緒に考えて行ければと考えている。

【講演 2】 『地域資源の発見と活かし方』

滋賀県立大学人間文化学部教授 濱崎 一志 氏

- 滋賀県には古い建物が多く残っているが、けっこうな勢いで消滅しているため、古民家をどう活かしていくかという活動を県内で行っている。
- 地域資源は建物だけではない。地域を形づくっている風土、歴史、自然、人も含めて地域資源として活用して、活性化をしていくというのがこのプランの趣旨である。
- 文化財として指定登録されているものだけではなく、学術的な価値はあまり高くないが、普段の生活の中にあり、人々の営みの中で育まれてきたものを地域の文化財として見直し活用していく。その中には、古くからの時代の道路網や水路網、条里地割、古式水道、カワト、湧水、古民家、社寺、祠、地藏堂など様々なものが含まれる。それらを地域資源として活用していくことで活性化に結び付けられないかということでこのプロジェクトが始まっている。
- 日本の山間部では、地域資源活用以前に地域が崩壊するという現状である。50年後には日本の人口が半減し、確実に古民家や機能性の低い民家が空き家としてあふれ

る状況になる。その中で今後どういうあり方が必要なのかを考えて、「廃村の村おこし」をテーマに研究室で活動しており、空き家を調査し茅の葺き替えイベントから始めた。

- 木之本町杉野学区においては、人口が半減しており大量の空き家が発生している。ここで地域住宅モデル普及推進事業を活用し、湖北独特の十字梁の余呉型（伊香型）古民家の改築を始めた。その際、ねむっていた「建家の結」が復活し、昔ながらの方法で地元の人が寄って集って出来ることを分担し、修繕してしまった。現在は田舎暮らし体験住宅として活用されている。
- 長浜では古くからの町家が残っているが、空き家が非常に少ない。これは空き家になると解体されるためであり、保存のためにモデル的に空き家を改良して、湖北古民家再生ネットワークの事務所として利用している。湖北古民家再生ネットワークでは、地域の活性化を図るため、様々なイベントを仕掛けている。
- 昔は家のメンテナンスは自分たちでやっていたが、今は建物と人の間があいている。そこで、町屋再生塾として会費 9 千円を徴収して町家修繕体験を企画募集すると、18名の参加があり、その後、町家の活用方法についても一緒に検討を行った。こういう取組は、地元の古い民家を考えていく参考になるのではないかと思う。
- 滋賀にも地域資源のひとつである木小屋、煙草蔵、灰小屋などが集落の中に点々としているが、こういった建物にもなくなりかけているものが多い。こういうものの価値を再度見直すことで様々なものが見えてくる。
- 高島の針江ではカバタを丁寧に調査して分布図を作成し報告することで文化的景観になった。集落としての景観は決して派手ではないが多くの人を訪れている。建物に限らず地域資源を上手く活用して集落の活性化に活用すると、地域に対する愛着も変わってくる。鍾馗さんをマップ化にして町歩きに使うとか、鍾馗さんを探すイベントをするなど、地域にある歴史的なもの、自然的なものの活用を、地域資源の発見と活かし方の中で考えていただきたい。

【パネルディスカッション】

■滋賀県立大学 副学長 布野 修司 氏（コーディネーター）

- 今回のパネルディスカッションでは、守山市はどのような特徴のあるまちだと考えているのか、また、今回の取り組みに対するどのような進め方をしていけばよいかについて、パネリストの皆さんと会場の皆さんから広く発言をいただき、共有をしたい。これからの学区別会議の検討ためのヒントが出てくればいいと思っている。

■高谷氏（パネリスト）

- 田園都市としては美しい水辺や農村が十分に活かされている姿が理想であり、その上でさらに日本はもちろん海外とも交流があるような開けたまちのイメージを持

っている。

- 琵琶湖があることで、北は日本海から南は瀬戸内からも入ってこられるのがポイントである。守山には港と水田があり、交易の拠点としても米の生産地としても極めて適している地域である。
- 我々は縄文の言葉と心を持っている。シベリアの言葉とインドネシアの言葉が約 5、000 年前にちょうど日本のあたりで出会って日本語が出来た。縄文時代のまれびとを受け入れるフレキシブルな心を持ち、弥生時代の米を食べて床の上での住む生活。その両方を含めてインターナショナルでありかつ田園的な生き方としている。日本人の原点は守山の弥生にあると確認したい。
- 原日本人なものは守山で完結したと思うが、今日までつなげようとする、三上山のことを考えなければいけないので、極論を言えば最低でも野洲市と湖南市は一緒に考えなければいけないと思っている。
- このプランをスタートとして、時間をかけて取組を続けることが必要である。大事なことは、それぞれが自分の持ち分で議論をすることである。

■濱崎氏（パネリスト）

- 街道沿いの景観をどう活かしていくのかがひとつのテーマであると考え。守山宿周辺に古い建物が残っているが、かなり危機的な状況である。個人で建物を維持してゆくことは困難で、一度失ってしまうと未来永劫復元できないものも多く、個人所有の建物をまるごと活性化プランの中で活かすことはできないかと思っている。また、琵琶湖との関わりで舟運もひとつのポイントであると考えている。
- 弥生時代以来の田園空間の上に条里地割りで骨格が形成され、野洲川が暴れ条里地割りを消し、その上にまた集落が復活するという歴史をたどりながら、さらにそこに街道が通り、今で言う中心市街地のような場所が出来あがっている。条里地割りのある田園風景の中に集落が点々と散在するというのが守山の現在の景観である。
- 学区別の議論では、地域のことを一番良く知っている地元の方の意見を集め、積み上げてどう集約するかにつける。そこに学生を参加させることで外の目も加え、学区別会議を進めていきたい。

■宮本 守山市長（パネリスト）

- 水路網が整った上流部の市街地、扇状地の恵みで湧水が多く出る田園地帯と琵琶湖周辺の漁村が守山の特徴である。都市と農村、漁村が共存しているのは日本でも希有な存在である。
- 弥生時代から人が住んでいたが、琵琶湖や野洲川の恵みによる肥沃な土地、豊富な水があり魚や食べ物に困らない。日本の中でもこんなに住みやすいところは他になかったと確信している。市内のどこを掘っても弥生遺跡があり、日本書紀には奈良時代に益須寺が保養所として指定を受けたという歴史が残されている。平安時代の荘園、中世の金森の蓮如関連遺跡、足利義昭の矢島御所、戦国時代の城、江戸時代

以降の街道文化と、歴史的に見ても古代から近代に至るまでの様々な蓄積がある。また、水、琵琶湖、カバタや伏流水などの自然資源も豊富であるので、これらをまずしっかりと整理し、地域でひとつひとつ発掘していただきたい。

- 将来を見据えて取り組むため、個性をつくることも視野に入れて議論して頂ければと思う。プランを作って終わりではなく、継続して地域の皆さんが関わる、将来に渡る基礎をつくる大切な取組であると考えている。
- ハコモノ整備が目的でなく、今あるものを活かして人の交流を生み出したい。

【会場からの意見】

■中洲学区長

- まるごと活性化プランは 50 年後 100 年後を見据えて検討するとういことだが、昭和 54 年に野洲川放水路が完成する前は、中洲学区ではふんだんに湧き水や自噴流が吹き出し、魚やホタルが住んでいた。現在は琵琶湖からの逆水で、部落の水路には畑かんをポンプアップして流しており、ホタルも飛ばず魚も住めない。学区の課題のひとつであるので、このプランの中で検討していこうかなと考えている。

■市民

- 長年地下水を専門としていたが、野洲川の問題は重要であるので、時間をかけて実態をよく調査した上で結論を出さないといけない。
- 今回のプランは地域の個性をどう活かすかがポイントであり、また、個性をつくることも大切である。プランは1年間でまとまると思うが、継続的に市民が関心を持ち、議論を続けていくものであってほしい。

■小津学区長

- 50 年 100 年先のことを考えるには、メンバーの年齢層が高い。ひとつの方法として、インターネットを活用して意見を集めることも検討してはどうか。

■河西学区長

- 河西学区は新しい住民が増えているので、新旧住民の意見を集約して会議に挑みたい。

■玉津学区長

- 学区別会議の場でメンバーそれぞれが一から資源を掘り出しては時間がかかるため、次回会議までにまず自治会長が資源を抽出することで会議がスムーズに進むようにしたい。

■守山学区長

- 自治会長に加えて学区内の 18 歳～35 歳の方を対象として抽出し、メンバー構成を進める予定をしている。自分の住んでいるまちの歴史は意外と知らないもので、事務局から資料を提供していただければと願います。

■小津学区長

- 人が集まり地域がより良くなるのが活性化のイメージであるが、歴史や自然を含めてどのようにまとまっていくのか。また、資源活用事例として公園や河川敷があげられているが、小津学区には象徴となるような大きな土地や公共施設がないので、どのように取りまとめができるかを心配している。

■吉身学区長

- 下之郷遺跡や野洲川が学区内に含まれている。自治会長と事前に進め方について相談しながら進めていきたいと考えている。

■速野学区長

- 10自治会のうち3自治会は歴史も浅い。速野学区は守山市の北玄関に位置するが、湖岸通りの県有地に市庁舎ができれば、取り付け道路沿いが活性化されるのではと考えている。

【会場からの意見を受けて、パネリストからの発言】

- 中洲学区長からのご意見については、野洲川改修に伴い失った中洲の伏流水の問題は長年の課題となっている。全体会議の委員でもあり地下水の専門家でもある河野氏と相談しながら、地下水に深くポンプを打つ等、一定の事業費の中で実現可能性について検討していきたい。
- 守山学区長からのご意見については、市が持っている資源の資料は各学区に提供するように取り組んでいく。
- 小津学区長からのご意見については、例えば今後整備が予定されている新守山川等の川の活用や、近年中に不要となる集落排水施設跡の有効活用なども視野に入れて検討していただいても良いと考えている。
- 速野学区長からのご意見については、今回の検討の中には市庁舎の新築など、新たな施設の整備を含むことは考えていない。既存の資源を活かして、人の交流を生んでいくという視点でアイデアをつなぎ活性化の具体策を検討して頂きたいと考えている。市庁舎整備については切り離して考えていく。

【まとめ】

■布野 氏

- 全学区が参加して市全体の活性化を考えるというのは、全国でもユニークな取組であり、日本一の仕組みになる可能性を持っている。
- 災害時には、コミュニティ（学区）の力が問われると思っている。今回、地域の中で議論をしていただくことは、地域力として、ぜったいに財産になると思っている。
- 最後には、楽しい活気あるプランがまとまることを願っている。